

本時のねらい

- 自分の長所を知ることができる。
- 自分の長所をより良くしようと考えることができる。

本時における 1 人 1 台端末の活用方法とそのねらい

- 思考ツールで考えをまとめ、目標と方略を明確化することができる。
- テキストとイラストで設計図を作成することができる。

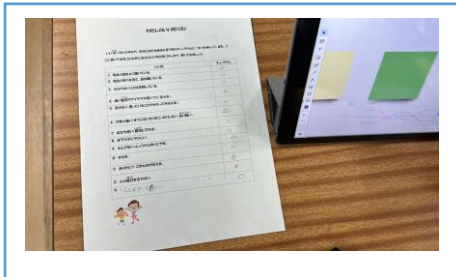
活用した ICT 機器・デジタル教材・コンテンツ等

- ・マイシード（オクリンク）
- ・大型掲示機
- ・Miro（ホワイトボード機能のあるオンラインソフト）

本時の展開

| 学習の流れ | 主な学習活動と内容 | ICT 活用のポイント・工夫 |
|---------------|--|---|
| 導入 (10 分) | <ul style="list-style-type: none"> ○本時の内容を示し、見通しを持つ。 ○チェックリストから、自分の長所をあげ、Miro のマインドマップに入力していく。【写真 1】 ○課題を掴む。長所をよりよくしよう。 | <ul style="list-style-type: none"> ○どのような活動を行うのか、電子黒板で示しながら学習に見通しを持たせる。 ○Miro に文字入力をする際は、手書き、フリック、音声など児童にあった方法で入力できるように声掛けをする。 |
| 展開 (25 分) | <ul style="list-style-type: none"> ○Miro の操作方法を知る。 ○Miro のマインドマップに記入したお互いの長所を、ペアで広げていく。 ・1 つの長所に対して、「その長所があれば、どんないいところにつながるか」と問いかけ、長所を別の視点から考えることを繰り返す。【写真 2】 | <ul style="list-style-type: none"> ○ログインしやすいよう、ボードの QR コードを読み取らせる。 ○共同編集により、お互いの長所について協働的に考えることができる。 |
| まとめ (10 分) | <ul style="list-style-type: none"> ○マインドマップの中から長所を選び、思考ツール（ステップチャート）で考えをまとめ、目標と方略を明確化する。【写真 3】 ○Miro の画面全体をスクリーンショットし、オクリンクで提出し、お互いのこれから取り組みたいこと、頑張りたいところを振り返らせる。 | <ul style="list-style-type: none"> ○思考ツールを使って、長所をより良くするために、段階的かつ具体的に考えさせる。 伸ばしたい長所⇒すること⇒どう変えたい？ ○マインドマップと目標の両方を記録に残すことで、思考の過程が視覚化でき、振り返りも行きやすくなる。 |

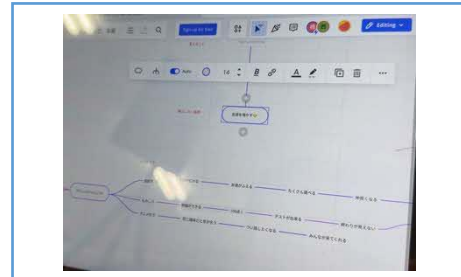
1 人 1 台端末を活用した活動の様子



【写真 1】事前に宿題で作成した私のいいところリストと Miro の画面



【写真 2】マインドマップを使って、長所を広げている様子



【写真 3】思考ツールを使って、目標達成への行動を考えている様子

児童生徒の反応や変容

- 思考ツールを使用することによって、目標が決めやすいと感じた。
- 児童が iPad を用いた授業に対して高い興味、期待感があるというのを感じた。
- 思考ツールを使うことによって、後日「考えが整理しやすいから、他教科でも使ってみよう」という児童もいた。

授業者の声～参考にしてほしいポイント～

- 宿題を出しておくことで、授業にスムーズに入ることができ、時間短縮になる。
- 思考ツールを使用することによって、考えるのが苦手な児童でも、自分の考えを導きやすくなる。
- 使用するアプリを少なくすることで活動の流れが分かりやすくなる。